

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
社会福祉 Social Welfare		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程の他の科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登	本館2階	火・水・木・金・曜日の9時～17時		授業中に指示します
授業の概要				
<p>少子・高齢社会において、わが国はますます福祉重視型の社会を目指している。これから保育士として社会福祉に関わる仕事をめざす学生のために、社会福祉の基本知識を概説する。</p> <p>福祉の基本や福祉関連業種、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何かを学ぶ。またこれまでの福祉理念の変遷、これからの福祉のあり方についても概説する。</p>				
授業の目標				
<p>①保育士として最低限必要な社会福祉の基本的な知識を活用できるようにする。</p> <p>②社会福祉制度の法制を理解し、事業・サービス提供の方法を述べるようにする。</p> <p>③社会福祉の課題やあり方を自らみつけ、自身の考えを述べるようにする。</p> <p>④社会福祉と児童福祉・児童の人権・家庭支援の関連性について自分の考えをまとめる。</p>				
授業の方法				
<p>テキスト中心に進めるが、社会経験が少ない学生にとっては言語的説明だけではイメージしにくいと思われるので、映像資料をできるだけ用意する。また、教科書、スマホによる調べ学習も取り入れる。毎回授業の最後に小テストを実施し、知識の定着を図る。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>社会福祉制度の法制、サービス、事業を説明でき、自分が携わる領域の存在意義を認識し、保育場面における様々な福祉課題に必要な基礎的知識を身につけることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の目標と進め方、成績評価についての説明、あなたと社会福祉）			
第2回目	保育と社会福祉			
第3回目	社会福祉の道すじ			
第4回目	社会福祉の実施体制と財源			
第5回目	暮らしを支える社会保障制度①（年金保険・医療保険）			
第6回目	暮らしを支える社会保障制度②（公的扶助）			

第7回目	子どもと家族の福祉
第8回目	障害のある人の福祉
第9回目	高齢者の福祉
第10回目	地域福祉
第11回目	福祉の専門職と倫理
第12回目	保育士とソーシャルワーク
第13回目	利用者の権利擁護とサービスの質
第14回目	社会福祉の課題
第15回目	保育士をめざす人の社会福祉まとめ（1～14回の授業を振り返って）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		遅刻せず授業に集中しメモを取る受講態度であれば、毎回1点です。
レポート		
調査報告書		
小テスト	100%	1～10回までは7点×10回＝70点（穴埋めと論述課題）。11～15回目は6点×5回＝30点。
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

保育士を目指す人の社会福祉（株 みらい）

履修上の留意点・ルール

毎回プリントを用意するので、ファイルを用意してください。